

# 第Ⅱ部 一年次報告

1. オリエンテーション・G-Mission
2. 講演会・特別授業
3. Field Work（フィールドワーク）等
4. PEST ゼミ
5. Global English（グローバル・イングリッシュ）

## 1. オリエンテーション・G-Mission

4月当初、グローバルコース生に対するオリエンテーションをG-Missionという形で行いました。

### 【意義・ねらい】

- ・課題探求活動の雰囲気を感じ取る。
- ・グローバルコース生としての自覚を持たせる。
- ・ブレインストーミングの方法を意識付けする。
- ・パソコンの使用やネットワークを用いた課題の提出に慣れる。
- ・宿題とは異なる「Mission」への耐性を付ける。

『議論をする上でのルール五箇条』『講演を聞く上でのルール五箇条』を班毎に考えて発表せよ。」という課題でディスカッションを行った。

生徒達は新コースということで、どういった内容の授業が行われるのか不安を抱えており、それを払拭するのが一番の目的であった。

課題については出来るだけ根本的なものを、今後に役立つものを、と考えて設定した。

### 【授業の流れ】

|       |              | 教員準備                     | 生徒の動き                   |
|-------|--------------|--------------------------|-------------------------|
| 入学式   | G-Mission1配布 |                          | 生徒それぞれで五箇条を考え、メールで教員に送る |
|       |              | 班毎に各生徒の案を一覧表にする          |                         |
| 総合第1回 | G-Mission2配布 |                          | 一覧表にしたものから重複した内容を削る     |
|       |              | 重複したものを削除した一覧表作成         |                         |
| 総合第2回 | G-Mission3配布 |                          | ディスカッションして五箇条を作成する      |
|       |              | 定まった五箇条を発表用にパワーポイントにまとめる |                         |
| 総合第2回 |              |                          | 班毎に発表を行い、投票を行う          |
|       |              | 最多得票の五箇条案を教室に掲示          |                         |



## 【最多得票作品】

**【講演拝聴の五箇条】**

- 一、講演者の経歴などを調べるべし。
- 一、失礼のないようにすべし。
- 一、講演中メモをとり、質問すべし。
- 一、講演内容と意見をまとめるべし。
- 一、懐疑的な姿勢をもつべし。

**【議論実施の五箇条】**

- 一、礼儀を守るべし。
- 一、自分の意見を正確に持つべし。
- 一、簡潔かつ論理的に議論すべし。
- 一、一人一人の意見を尊重すべし。
- 一、視野を広げるべし。

## 【生徒の感想】

初めてのグローバルの授業でどんなことをするのかと少し緊張していましたが、先生の話が始まるともっとリラックスしていっぱい発言もしようと思いました。普段あまり喋ったことのない人との話し合いでしたが、積極的に参加できたと思います。

先生が、最後におっしゃった、「今、議論してたけど、自分たちが決めた『議論実施の五箇条』意識してた？」という言葉聞いて、はっ、としました。今決めたのに、全く意識してなかったなと思いました。そして、自分で、次はこれを意識しつつ議論をするためにはどうすべきか？それを考えてみたいと思いました。

## 【講評】

《良かった点》

- ・授業の雰囲気慣れ、課題探求活動を楽しむようになってくれた。
- ・議論の仕方や課題の提出など、学習を進める上での約束事を身につけてくれた。

《反省点》

「ねらい」は十分に果たせており、オリエンテーションとしては成功であったと思われる。強いて反省点を挙げるとするならば、グループウェア導入との時期的なズレもあり、メールで課題を提出させていたが、件名や送付者名等々の約束事において不備が多く、処理が煩雑になったことである。「情報教育との関連性を考える必要はあると思われる。

## 2. 講演会・特別授業

本校に講師の先生をお招きし、グローバルコース生全員を対象に、講演や特別授業（ワークショップ形式）を行っていただきました。

| No. | 日程       | 講師                                    | 内容  |
|-----|----------|---------------------------------------|---|
| 1   | 5/15(金)  | 関西学院大学 国際学部<br>吉村 祥子 教授               | <b>Political</b><br>①吉村先生より、平和や人権に関する講演を行っていただく。<br>②グループに分かれ、各チームに与えられた事例が、「児童権利条約」のどの条項に抵触しているかを考える。その後、その問題を解決するための方策を考え、その方策を実行する際の課題とその課題の解決策も考える。<br>③グループで話し合った内容について、発表を行う。 |
| 2   | 6/29(月)  | 関西学院大学 社会学部<br>村田 泰子 准教授              | <b>Societal</b><br>①我々は、自分、あるいは他人の行動を性別によって規定してしまう傾向にあることを講演していただく。<br>②家族社会学・ジェンダー論の位置づけなどについて解説していただく。<br>③講演の中で、生徒に意見を聞きながら「感情労働」等の問題について考察する機会を適宜設けていただく。                       |
| 3   | 7/23(木)  | IGS 株式会社代表取締役社長<br>福原 正大 氏            | 「グローバルリーダーとして持つべき力（安全保障について考える）」<br>①ゲーム理論についての説明とペアワークショップ活動。<br>②一国の首相として集団的自衛権や外交について考え、意見を発表。<br>③海外大学に進学する学生から、勉強法などについての質疑応答。   |
| 4   | 9/29(火)  | 関西学院大学<br>イノベーション研究センター<br>土井 教之 名誉教授 | 「グローバル化と経済 ～エネルギー経済から～」<br>①エネルギー経済のしくみ<br>②エネルギー経済の特徴<br>③企業や産業の分析における視点<br>④産業との連関  |
| 5   | 10/27(火) | 京都大学 化学研究所<br>若宮 淳志 准教授               | 「化学の魅力」<br>① 有機薄膜型太陽電池の開発の意義について<br>② 将来のエネルギー獲得の問題から見た化学の発展について<br>③ 研究者の立場から見た有機薄膜型太陽電池の開発の現場について   |

|   |          |  |   |
|---|----------|--|---|
| 6 | 11/6(金)  | 滋賀県琵琶湖環境部<br>環境政策課<br>中村 達也 参事           | 「滋賀・琵琶湖を知る」<br>①将来の SP につながる「政策立案」に不可欠な、その土地の地理的特徴・歴史を学ぶ<br>②環境先進県となった理由（石けん運動を中心に）<br>③「飲水思源」の考え方について  |
| 7 | 11/27(金) | 立命館大学大学院<br>テクノロジー・マネジメント研究科<br>湊 宜明 准教授 | 「システムデザイン思考」<br>思考法のワークショップの続きとして、デザイン思考・システムデザインについてのお話を伺い、ワークショップも行った。ポイントは、「何を考えるべきかをまず考える」「システムの妥当性を見極める」ということであった。   |
| 8 | 1/15(金)  | 大阪大学 文学部<br>高橋 文治 教授                     | 「中国研究の現在」<br>グローバル化の中で中国研究の果たす役割の重要性、その際、欧米の「知の体系」を理解している日本人の果たすべき役割についての講演であった。中国の「愛の物語」を素材に、欧米との対比を行いながらグローバルに文化の差をとらえる試みで、派手なプレゼンテーションを駆使した講演とは異なり、大学の授業のように文字(漢字)と音声の情報のみでしっかり考える必要があり、生徒には良い体験となったと思われる。 |



### 3. Field Work (フィールドワーク) 等

様々な所にフィールドワークに出掛けて色々な活動を積極的にこなすことで、前項の講演会・特別授業とも連動して、シナリオ・プランニングに向けての基礎作りを行いました。

| No. | 日程          | 場所                       | 講師等   | 内容  |
|-----|-------------|--------------------------|---|---|
| 1   | 7/11<br>(土) | 立命館大学<br>いばらき<br>キャンパス   | 立命館大学大学院<br>テクノロジー・マネジメント研究科<br>湊 宜明 准教授                            | 「グローバルリーダーのための思考法ワークショップ」<br>①マシュマロチャレンジ (パスタとテープ、ヒモだけでマシュマロの乗った塔を建てる)<br>②発散型思考法 (ブレインストーミング法) と収束型思考法 (親和図法)<br>③論理的プレゼンテーションとは (論理のピラミッド構造を作る) |
| 2   | 7/14<br>(火) | 関西学院大学<br>西宮上ヶ原<br>キャンパス | 関西学院大学<br>社会学部<br>村田 泰子 准教授   | <b>Societal</b><br>①日本人海外留学経験者の話をもとに、ジェンダーという問題についての考察<br>②中国人留学生から、中国での子育てや女性の労働環境についての説明<br>③3つのグループに分かれて、中国人留学生に質問・意見交換後、議論内容の発表               |
| 3   | 7/14<br>(火) | 関西学院大学<br>西宮上ヶ原<br>キャンパス | 関西学院大学<br>国際学部<br>吉村 祥子 教授  | <b>Political</b><br>①本校生徒による、「国連弁当決議案」のプレゼンテーション<br>②そのプレゼンテーションに対し、吉村先生と大学生からのアドバイス<br>③吉村先生による、国連やその他に関する基礎的な知識についての講義                          |
| 4   | 7/21<br>(火) | 産業技術総合<br>研究所<br>関西センター  | 産業技術総合研究所<br>関西センター<br>イノベーションコーディネーター<br>斎藤 俊幸 氏<br>研究員<br>堀内 哲也 氏 | <b>Technological</b><br>①施設内見学と設備や研究内容の解説<br>②ブレインストーミング法を用いての柔軟な発想法のコツを伝授 (グループワーク)<br>③産業技術総合研究所と関西センターについての説明                                  |
| 5   | 11/4<br>(水) | 本校コンピューター教室              | 姉妹校、豪州ブリズベン・グラマー・スクールの日本語コース選択生徒                                    | <b>Skype</b> を用いた交流会<br>無料通話ソフト Skype を用いた交流会。同年代の外国の生徒と、英語と日本語を用いての交流。   |
| 6   | 3/21<br>(祝) | 関西学院大学<br>西宮上ヶ原<br>キャンパス | 春期筑波方面フィールドワーク参加者   | 近畿地区 SGH 課題研究発表会<br>①プレゼン発表 “How We Have Acquired a Perspective through Virtual Trade”<br>②ポスター発表<br>「タブレット化についての考察」<br>「男らしさと女らしさについて」           |

3月 国内外のフィールドワーク

| No. | 行先                           | 日程          | 内容  |
|-----|------------------------------|-------------|---|
| 1   | 国内（関東）                       |             | 新大阪発→筑波大学<br>大学院生による講演およびワークショップ活動  |
|     |                              | 3/16<br>(水) | 産業技術総合研究所(AIST)つくば<br>2つの研究室によるワークショップ活動と施設見学   |
|     |                              | ～           | 宇宙航空研究開発機構(JAXA)つくば<br>観測衛星からの資料を用いての環境予測や国際協力についてのレクチャーおよびワークショップ活動  |
|     |                              | 3/19<br>(土) | 筑波大学<br>Leslie Tkach-Kawasaki 准教授による講演<br>大学生・大学院生と協働でのワークショップ活動  |
|     |                              |             | 東京発→新大阪着  |
| 2   | マレーシア<br>(ジョホールバル)<br>シンガポール |             | 関西国際空港発→チャンギ国際空港着<br>マレーシア（ジョホールバル）へ陸路にて移動  |
|     |                              | 3/17<br>(木) | マレーシア工科大学<br>大学生・大学院生と協働でのワークショップ活動<br>テーマ別のプレゼン・グループ別ディスカッション<br>イスカンダル計画視察  |
|     |                              | ～           | マレーシア工科大学<br>レクチャー、ディスカッションのまとめとプレゼン<br>マレーの村体験   |
|     |                              | 3/22<br>(火) | シンガポールへ陸路にて移動<br>企業訪問・レクチャー（シンガポールの歴史と発展）・見学等<br>現地大学生とグループ別のフィールドワーク   |
|     |                              |             | NEWater(水再生処理施設)見学<br>St. Joseph's Institution（シンガポール）<br>高校生と協働でのワークショップ活動<br>テーマ別のプレゼンテーション、グループ別ディスカッション<br>現地法人訪問・見学等                                 |
|     |                              |             |   |
| 3   | フィリピン<br>(マニラ)               | 3/17<br>(木) | 関西国際空港発→マニラ国際空港着<br>Colegio de San Juan de Letran<br>高校生と協働でのワークショップ活動、<br>キャンパスツアー、レクチャー聴講<br>グループ別ディスカッション（テーマごとにグループは変わる）<br>ディスカッションの内容についてのプレゼンテーション |
|     |                              | ～           | Letran の学生とグループ別フィールドワーク（マニラ市内）   |
|     |                              | 3/22<br>(火) | 現地大学の日本人講師による講演・ワークショップ活動<br>各企業や施設の訪問・講演・見学等<br>スモークーマウンテン見学   |
|     |                              |             |   |

## 4. PEST ゼミ

前期は Political（政治学的分野）と Societal（社会学的分野）を、後期は Economic（経済的分野）と Technological（科学技術的分野）を行いました。

### 1) PEST ゼミ Political（政治学的分野）

#### 【意義・ねらい】

- ・プレゼンテーション能力や表現力、交渉力を高める。
- ・自国や他国への関心を高める。
- ・課題発見、問題解決能力を養う。
- ・法令等の読解による専門知識を身に付ける。

「模擬国連」では自らの担当する国の課題を探り出し、解決のための決議案を考える。そしてそれが決議となるよう、他の国から理解が得られるよう説明し、折衝する。この取り組みを通して生徒たちは、政治とは「最大多数の最大幸福」を実現するものであると実感し、自国だけの利益にとらわれてはいけないということに気づくはずである。この自己にとらわれず多様性を認める姿勢こそ、生徒たちが政治を学ぶことを通じて身につけるべきものである。

「模擬国連」参加に向けた導入として、高校1年生の授業では、「国連弁当」を教材にした。「国連弁当」とは、もちろん架空のものであるが、国連会議の場において世界中の参加国が会議の合間に同じ弁当を食べるとすると、どのようなものがふさわしいかを考えるというものである。生徒たちは4～5名ずつのグループに分かれ、担当国を決定し、政治・宗教・文化などに配慮しながら、それぞれの国が提案する決議案を作成した。

#### 【授業の流れ】

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 1回目 | 授業ガイダンス、模擬国連の紹介       |
| 2回目 | 担当国決定                 |
| 3回目 | 「国連弁当に関する決議案」作成       |
| 4回目 | 「国連弁当に関する決議案」作成、発表の準備 |
| 5回目 | 各グループの決議案発表           |
| 6回目 | 他国の決議案の改善点を考え、交渉する    |
| 7回目 | 決議案を完成させる             |

## 【生徒の感想】

今日は P の最後のゼミがありました。今回は各班から厳しく指摘をうけた決議案の改正をしました。改めて自分たちの決議案を見ると「こうすればよかったなあ」とか「こういうふうに言えばよかったなあ」とか後悔と反省は山ほどあるのですが、まずは期末テストをのりきって、改正案をじっくり考えたいなあとと思います。

他の班からの改善案を受け取り、最終的な案の作成に取り掛かりました。他の班からの客観的な意見はとても参考になりました。そしてどんな場面においても客観的な視点が重要だと思いました。

今回は前回の続きで他班と欠点や質問点を書いた紙を交換しました。また残りの時間で決議案の修正をしました。一学期をかけて作ってきた物をやっと完成させることになります。色々欠点もあったのでちゃんと班員で集まり、訂正案を練りたいと思います。テスト後の提出日までにもっといい物に仕上げられたらいいなと思います。

## 【講評】

### 《良かった点》

- ・どの生徒も終始、意欲的・積極的に取り組んでいた。
- ・パワーポイントなどを使用し、プレゼンテーションを行うことに慣れてきた。
- ・他の教科やクラスの決め事の際にも、活発な議論が行えるようになってきた。

### 《反省点》

- ・決議案作成にはかなりの時間を要し、授業以外の時間の負担が重かったように思う。
- ・「調べる」ということに不慣れな生徒が多く、日本国内の一部のホームページで調べて満足している者が多かった。
- ・まとめや発表の時期が定期考査と重なり、生徒たちにとっては負担をかけるものになった。
- ・生徒たちが校内でパソコンを用い、相談できるような活動場所が十分に確保できていなかった。



## 2) PESTゼミ Societal (社会学的分野)

### 【意義・ねらい】

- ・ディスカッション、プレゼンテーションに慣れる。
- ・エクセルを用いた情報処理を行う。
- ・論理的思考力を養う。
- ・失敗をする。

社会学のゼミということで、社会が人間をいかに規定しているか、つまり、人間が無意識のうちになどこれほど社会から影響を与えられているか、を考えさせることを意図した。

日々目にする機会の多いアンケート調査であるが、それを作成するためには様々な角度からの論理的思考が必要である。自分達が立証すべき仮説を立て、それを証明するための論理展開を考え、そのための論拠をアンケート結果に求めることが出来るように、各アンケート項目を設定していかねばならない。演習を通じて、アンケート調査というものの自体が有意図的なものであるということを体感させ、社会は様々な思惑に満ちていることも考えさせたかった。

なお、当初は具体的な内容（「A型はまじめだ」という説が人に与える影響は？」等）を与える予定であったが、生徒から「自分たちで設定してみたい」という要望が出たこともあり、任せることにした。

### 【授業の流れ】

|     |   |
|-----|---|
| 1回目 | 社会学についての説明                                    |
| 2回目 | 命題・仮説の設定<br>課題：「当たり前だと思われている命題がどう人に影響を与えているか」 |
| 3回目 | ディスカッションを通して、アンケート項目の作成                       |
| 4回目 |   |
| 5回目 | アンケート結果の入力・分析 → 仮説の検証                         |
| 6回目 |   |
| 7回目 | 発表  |

### 【生徒の感想】

Sは内容がとても難しく、今まで毎回苦戦してきました。発表の準備もテスト前ということもあり時間があまり取れず、十分にやってきたことを発揮できなかったのが悔しかったです。また他の班の発表を見て、プレゼンの仕方も勉強できたので、これからは生かしていきたいと思いました。

私達の班は外見が内面にどう影響を与えるかという話について考えてきました。結果だけ言えば、正直失敗だなと思います。アンケートの内容はもっと練ることが出来たと思うし、仮説と結びつけるのは難しいだろうと判断して使わなかったアンケートの集計結果もたくさんありました。時間が足りなかったというのがありますが、もう少し上手く話を持っていくことが出来たんじゃないかなと思います。仮説が正しいか正しくないかを検証するというもとの目的からも少し逸れてしまっていました。次回以降は目的をしっかり認識して、もっと力を尽くしたいと思います。

今回は 1 学期の最後の授業で班で考えた事を発表しました。発表内容にはある程度満足できましたが、面白さと時間短縮が大きな課題だと痛感しました。またツッコミを入れられるところがあったと思うので、そのへんも詰めていきたいです。班の皆と一緒に一生懸命アンケート実施、考察をして得た物は自分にとってよいものになりました。楽しかったです。

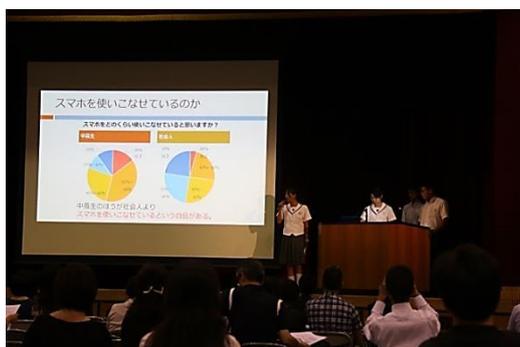
## 【講評】

### 《良かった点》

- ・生徒の取り組む姿勢は素晴らしかった。
- ・パワーポイントの使用など、教えていない技術もどんどん活用するようになった。
- ・満足できる発表を出来る班が無かったという意味では、しっかりと失敗経験を積むことが出来た。

### 《反省点》

- ・議論、分析、検証、全ての段階において時間が不足していた。
- ・論理的な思考を固めきれないままにアンケート実施に踏み切ったため、各発表についても論理的なものとはならなかった。パワーポイントを用いての小手先のプレゼンテーション技術に頼ることとなってしまったのは、残念である。



### 3) PEST ゼミ Economic (経済的分野)

#### 【意義・ねらい】

- ・企業研究を通してエネルギーに関わる企業を中心に企業活動や技術を知る。
- ・投資行動から経済・市場の動向を知る。

実際に企業が行っている活動や技術革新の分析を通して、基礎知識を身につけさせ、さまざまな地球的・地域的課題を解決するための発展的な議論が出来る素地を育成することを目標とした。

しかし、高校生は非常に情報の少ない、限られた生活をしている。そのような中で経済の知識は公民の教科書で学習するようなごく基本的なもので、実際に議論ができるほどのものはない。情報を与えるのではなく、自ら情報を求めさせる方法として、日経ストックリーグ(ヴァーチャル投資)の手法を活用することにした。企業への投資行動によって、企業がどのような活動を行っているか、どのような技術をもっているか、どのような社会的貢献を行っているかといったミクロな視点を養うことが期待できる。また、株価の変動は内外の経済、政治など様々な影響をうけ、マクロな視点を養うことができる。ただ、授業時間数の関係上、株価への影響分析については、必須項目とはしなかった。

#### 【授業の流れ】

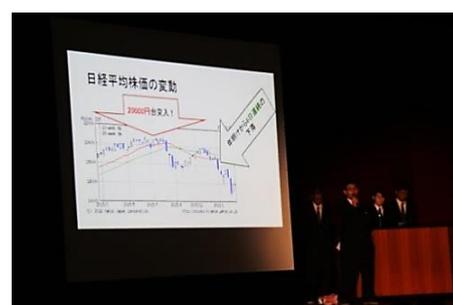
|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 1回目 | テーマを決めよう                      |
| 2回目 | テーマに沿った企業や技術を調べよう             |
| 3回目 | スクリーニング1 業務内容で企業を選別しよう        |
| 4回目 | スクリーニング2 様々な指標で企業を選別・資金配分しよう  |
| 5回目 | レポートの作成準備                     |
| 6回目 | プレゼンテーションの準備                  |
| 7回目 | プレゼンテーション                     |
| 8回目 | プレゼンテーションの質疑に対する回答の作成とレポートの修正 |

今回の授業では最終的にテーマに関するプレゼンテーションとレポートの作成を行うこととした。プレゼンテーションだけではなく、レポートを課した理由は、テーマについて論理的に考えられているか、資料などを吟味しているかなど短時間の発表だけでは分からない部分を見るためである。また、来年以降、本格的に日経ストックリーグに参加する場合、ストックリーグの評価がレポートであるため、その予行演習も兼ねている。そのため、発表・レポートともに日経ストックリーグに準じて、テーマに関する現状分析、ポートフォリオの作成、企業の紹介という流れとした。

テーマ設定ではブレインストーミングを用いた。太陽光や環境関連など一般的なエネルギーの範疇にこだわらず、柔軟に発想させることにし、幅広いテーマにつなげられるように心がけた。そのため、エネルギーから離れたテーマを選んだチームもでた。

研究テーマに関係する企業は主にインターネットと四季報などを使い調べることにした。ポートフォリオの作成では株式投資の代表的な指標のほか、チームで考えた指標などを加えさせ、その指標の意味について考えさせるようにした。授業ではなるべく説明の時間を短縮し、活動時間を増やすことを心がけた。事前プリントを作成し、授業での説明をパワーポイントで要点だけを示した。

プレゼンテーションの授業では、質疑応答や各チームの採点の時間を設けることができなかったため、グループウェアを活用した。各チームの採点はループリック評価表に従って各生徒が行い、最後の時間では質疑に対する回答を考え、レポートやプレゼンテーションの改訂作業を行った。



## 【生徒の感想】

- 班に分かれてブレインストーミング法でエネルギーから発展させてアイデアを出しました。私たちの班のアイデアでは食品、観光業、文房具といったようなグループが最終的にできていました。初めの方は皆、あまりアイデアが出てこなくてつまっていたのですが、後半になると次々にアイデアが浮かび、わいわいと楽しかったです。次のゼミでは更に色々な視点から考えるようにしたいと思います。
- 各班 5分という時間内に収めるのに苦労していました。十分時間があつたら全く違う出来栄になっていたかも知れません。今回の発表を通して、時間の無駄をなくして、かつ伝えたいことをなるべく多く伝えるということの難しさを学びました。また、経済の動きにこれだけ注目したことは、自分も含めて、ほとんどの人にとって初めてのことだったとおもいます。経済の知識を身につける良い機会だったと思います。

## 【講評】

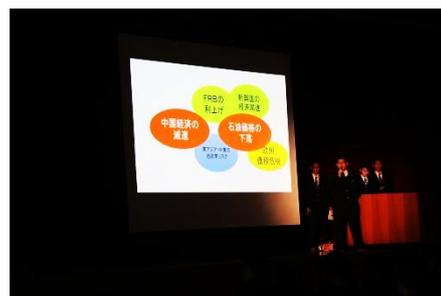
ねらいとしてあげた「企業活動や技術を知る」という点では、不十分ながら達成できたと思う。いままでは、企業のホームページを見たり、ましてや CSR（企業の社会的責任）について調べる機会はなかったと思うが、それらに積極的にアクセスし情報を得て、新たな知識を得ることにつながったと思える。

テーマを決定する時には、湊准教授(立命館大学大学院)から教わったブレインストーミングを実践し、1回目・2回目の授業がスムーズに進められた。また、プレゼンテーションでは 50 分で 7 班の発表を行うため、1 班 5 分の発表時間となった。各班調べた分量に対して、発表時間が短く苦労していた。しかし、プレゼンの中には非常に魅力的で工夫の見られたものも多く、いかにポイントを絞って発表するか、また、その練習がどれだけ必要かということが分かったと思う。

今回の実践では様々な場面でグループウェアを活用した。紙媒体で配布した資料の PDF 化してのアップロード、生徒への連絡、プレゼンテーションの採点、質疑の入力などである。

### 《課題》

- ① 前述の理由で、テーマ設定が「エネルギー」から大きく外れたものが散見された。当初の考えでは、より幅広い分野の企業を知ってほしいということで、「エネルギー」から遠くなくてもよいとした。
- ② 生徒に「課題発見意識」が乏しいということも課題である。調べた企業活動や技術がどのような未来を築くのか、どのような社会的な問題の解決につながるのかといったことまで考察できていなかった。「企業のことを調べておわった」という印象を持たれてしまう内容のものもあり、課題発見学習、課題解決学習に必ずしもつながらなかったのは反省すべき点である。  
今後はテーマ設定を明確に課題解決型のテーマに絞り、そのような取り組みをしている企業を調べるのがよいのではないかと考えた。
- ③ プレゼンテーションおよびレポートの評価はルーブリックを利用したが、その活用が十分ではなかった。ルーブリックを早く提供して生徒の目的意識やレポートの方向性を示唆すべきだった。また、ルーブリックの内容についても今後検討を加える必要があると感じている。
- ④ ポートフォリオの運用実績と株式市場の変動の要因から経済の仕組みを研究させようと試みたが、時間的余裕がなく、チームのチャレンジ項目として、一部のチームのみの取り組みとなってしまった。
- ⑤ 授業時間数の関係上、事前プリントの配布やグループウェアの活用などを行ったが、ICT インフラが未整備のため、グループウェアへのアクセスがタイムリーにできなかった。毎授業の感想をグループウェアに書き込むことにしたが、必ずしも十分に活用できたとはいえなかった。



#### 4) PEST ゼミ Technological (科学技術的分野)

##### 【意義・ねらい】

- ・科学的な視点を養い、分析力や懐疑論的思考力を高める。
- ・プレゼンテーション能力や表現力を高める。
- ・ルーブリック評価について理解する。
- ・書籍の要約に慣れる。
- ・図書館での高度な書籍検索の方法を身に付ける。

科学的な視座の基礎を身につけるために、科学技術の進展の妨げともなり得る「疑似科学」についての研究を行った。「疑似科学」といっても、そう判断できる根拠を説明することは難しい。5～6名のグループ毎で、身近なニュースや話題から探し出し討論、発表を行った。

授業の前半では「疑似科学入門」(池内了 著, 岩波新書)を課題図書とし、グループ毎で要約を担当する領域を指定し、「手書き」に限定した資料の配布による発表会を行った。ここでは、池内氏が述べている「疑似科学」の定義と分類方法について共通理解を図ることを目的とした。

後半は前半での要約内容を踏まえ、各グループが「疑似科学」となる事象を探し、その根拠について検討し、プレゼン形式による発表を行った。また、インターネット等による検索調査では、科学的根拠を探る部分での議論が十分に深められない可能性もあり得ることから、プレゼン発表に必要な調査は原則として図書館で行うこととし、図書館司書による高度な書籍検索の方法の指導も合わせて実施した。さらに、プレゼン発表の評価は、担当教員が作成した以下に示すルーブリックによるものとし、生徒がこれに従って採点し集計を行った。

プレゼン発表に関するルーブリック

| 観点 \ 点数 | 1      | 2        | 3              | 4              | 5      |
|---------|--------|----------|----------------|----------------|--------|
| 時間(5分)  | ±91秒以上 | ±61秒～90秒 | ±31秒～60秒       | ±11秒～30秒       | ±10秒以内 |
| 説明原稿    | すべて朗読  | ほとんど朗読   | チラ見6～10回       | チラ見1～5回        | 1度も見ず  |
| 話題の完結   | 支離滅裂   | 何か違和感    | <b>逆</b> の解釈可能 | <b>別</b> の解釈可能 | 完全納得   |

##### 【授業の流れ】

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 1回目 | 授業ガイダンス ～「科学」と「疑似科学」について～ |
| 2回目 | 「疑似科学入門」の要約               |
| 3回目 | 「疑似科学入門」の要約発表会            |
| 4回目 | 疑似科学のテーマを決定               |
| 5回目 | 疑似科学のテーマに関する議論            |
| 6回目 | プレゼン準備                    |
| 7回目 | プレゼン発表会                   |
| 8回目 | 発表に対する質疑への回答を検討           |

## 【生徒の感想】

technological は私にとってはすごくやりづらく、大変でした。班のみんなと話し合う時間があまりなくて、二人だけでやったりしていました。もっとちゃんと計画してやったら良かったなどと反省しています。この経験を生かして、来年も頑張っていきたいと思います。

世の中には本当に多くの疑似科学がはびこっているのだなと思いました。疑似科学をやる時最初は何のためにやっているのかわかりませんでした。しかし今は少し分かってきたような気がします。

自分たちは自信をもって発表していても、周りの別の視点を持った人からすると沢山質問が生まれるものだと気付かされました。また、質問の内容も強烈なものがあり、自分たちの調べ込みの甘さが分かりました。反省して次につなげようと思います。

## 【講評】

### 《良かった点》

- ・「疑似科学」に関する調査を通して、身近な話題について科学的な視点で考察できるようになった。
- ・書籍の要約や図書館での調査活動を通じて、書籍から多角的な情報を得られることを理解できた。
- ・ループリック評価を通して、客観的な評価結果が得られた。

### 《反省点》

- ・テーマによっては現象が複雑すぎて、科学的視点からの考察が困難なものも見られた。
- ・ループリック評価に関して、生徒に評価基準を決めさせてもよかった。
- ・インターネットによる検索を制限しすぎた。



## 5. Global English (グローバル・イングリッシュ)

### 前期

#### 【意義・ねらい】

- ・ 英語によるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。
- ・ 正確で、分かり易い英文を書く力を身に付ける。
- ・ 日本文化に対する理解を深める。

#### 【授業の概要】

- ・ 1学期の授業回数は3回。
- ・ 1クラス(40名)を20名ずつのグループに分けて授業を行う。
- ・ 20名のグループに対し、日本人教員1名と外国人教員1名が指導にあたる。
- ・ 授業はすべて英語で行い、生徒同士も原則として英語で会話を行う。

#### 【授業の流れ】

|       |   |
|-------|---|
| 授業外活動 | 各生徒が紹介文を作成し、提出。   |
| 1時間目  | 5グループに分かれ、各グループで20の紹介文から3つのベスト紹介文を選出する。<br>その後、選んだ紹介文をその理由とともに発表する。 |
| 2時間目  | 各グループにより選ばれた紹介文(約10編)から、さらに5つに絞る。<br>その後、各グループの担当を決定する。             |
| 授業外活動 | 担当した紹介文をさらに分かり易く改善し、完成した紹介文を暗記する。                                   |
| 3時間目  | 1クラス(40名)が集まり、各グループ代表が紹介文の発表を行う。                                    |

#### 【生徒の感想】

- ・ 初めてのGEの授業でしたが英語のみで会話したり、限られた時間で自分たちの意見をまとめたりするなど、結構大変だった。また今回、人の意見を聞いてばかりだったので、次はもっと積極的に自分の意見をアピールしていきたい。
- ・ 今回も思ったのは、やはり英語で議論するということはとても難しいということだ。まず言われている内容を理解しなければどうしようもない。自分の班または自分自身だけでなく、他人にまで迷惑をかけてしまう。分からない場合は流さず、毎回質問しようと思う。また、前回の反省から、次は失敗を恐れず発言していくという目標を立て実践してみると、先生に言いたいことが通じた上、どう表現したらいいかということが分かった。
- ・ 今日各クラスで作ってきた日本文化の紹介文の発表でした。ランダムで班員の人々が当てられて前に立ち、発表をしました。中には自分からやりたいと先生に言って発表している人もいました。私はそこまで出来るような自信も勇気もありませんでした。自分から前に立てる人は素直に尊敬できると思います。先生が言っていた通りに今後練習・経験をたくさんして、自分から動ける人間になりたいと思います。

#### 【講評】

(良かった点)

- ・ 生徒が自分たちの英語力不足を痛感できた。
- ・ 意思疎通をするのに、完璧な英語を話す必要はないということが理解できた。
- ・ 発表をする際、聞き手を中心に考えて行うことが重要であると認識できた。
- ・ 日本文化についての知識を深めることができた。

(反省点)

- ・ 授業時間数が少なかったこともあり、授業外での活動が多く、生徒にとって負担が大きかった。
- ・ 最後の授業時に、暗記をきちんとできていない発表が多かったのは残念であった。

(但し、暗記のために与えた期間が短かったのは我々教員の反省点である。)

## 【活動】

国際的な関心が高い、日本の持つ問題について英語による Debate（ディベート）を行う。

## 【意義・ねらい】

- ・ 英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・ 正確で分かり易い英文を書く力を身に付ける。
- ・ 論理的な思考力を養成する。・ 1つの問題に対しても多面的に考えることの大切さを理解する。
- ・ 時事問題に対する関心を深める。

## 【授業の概要】

- ・ 2, 3学期の授業回数は5回。
- ・ 1クラス（40名）を20名ずつのグループに分けて授業を行う。
- ・ 20名のグループに対し、日本人教員1名と外国人教員1名が指導にあたる。
- ・ 授業はすべて英語で行い、生徒同士も原則として英語で会話を行う。

## 【授業の流れ】

|      |   |
|------|---|
| 1時間目 | ディベートの趣旨とルールを把握。（プリントを配布し、ビデオを見る。）<br>グループ全体のトピックの選択と決定。                            |
| 2時間目 | 6チームに分かれる。（1チームにつき3～4名） チーム内での役割分担決定。<br>論点を明確にし、立論を作成。<br>（賛成・反対のどちら側でも対応できるよう準備。） |
| 3時間目 | 論点をさらに深める。予想される質問、反駁などに対してどう対応するかを考える。  |
| 4時間目 | 2チームによる模擬ディベートを通して、流れを確認。論点等の最終確認。  |
| 5時間目 | 2チームずつ、対戦型でディベートを行う。  |

## 【生徒の感想】

- ・ 英語で自分の意見を伝えるのは難しかったです。伝わったときは嬉しかったです。
- ・ 日本語でも難しそうなのに、英語でやるなんてどんなに難しいんだろうと思いました。
- ・ インターネットを使って情報を収集しましたが、英語で検索して有用なサイトを見つけるのは難しく、また内容を理解するのがとても難しかったです。
- ・ 準備不足で作業が上手く進まなかった。準備が大切だと改めて思い知りました。
- ・ 語彙力とかがなくて表現するのが難しかったり、色々と苦労しました。
- ・ 重要な部分だけを抜粋して自分なりに情報をまとめることが大切だと思いました。

## 【講評】

（良かった点）

- ・ 英語での意思疎通が少しはできるようになり、情報収集の中で語彙力がアップした。
- ・ 論理的な文章を作成することの難しさを実感できた。
- ・ ある一つの問題に対しても、様々な意見や考え方があることを認識した。
- ・ 国際的に関心の高い、日本に関する問題についての知見を深めることができた。

（反省点）

- ・ もう少し早くからトピックを提示し、必要な情報や知識を事前に収集させておくべきであった。
- ・ 英語で情報を得ることが非常に難しく、授業内での活動の多くが調べ学習になっていたのもう少し話し合いをする時間を確保すべきであった。
- ・ 当初の予定では生徒たちにもジャッジをさせる予定だったが、英語を聞きながらジャッジすることが予想以上に難しく、結局は判定ができなかった。